

ブラジル体験ワークショップに参加してみました！ ● カポエイラ ●



カポエイラは今日ではブラジルの格闘技として有名ですが、その起源については様々な説があり、アフリカのアンゴラにあった部族の踊りであるというのが有力とされています。ポルトガル人の黒人人身売買によりアフリカの人々が奴隷としてブラジルに連行され、その際にカポエイラの原型もブラジルに持ち込まれたとされています。

もともと部族の踊りということもあり、全員が輪になって楽器、手拍子で盛り上げ、輪の中心で2名が向き合って闘うという非常ににぎやかな格闘技です。ただ、確かに格闘技ではありますが相手に技が決まっても相手に触れることはなく、流れを止めないで踊り続けるところが他の格闘技との

違いでしょう。まさにダンスと格闘技の中間という言葉がぴったり当てはまります。

一般的にカポエイラは手を使わずに脚のみで闘うというイメージがありますが、実際に見てみると非常にアクロバティックかつ豪快で、とても迫力がありました。独特のステップに始まり、バック転、逆立ちをしながらの蹴りや回転蹴りなど技もとても豊富で、見る者を飽きさせません。このフェスタではワークショップとホールでの実演がありましたが、どちらも観客を大いに魅了していました。

現在日本各地にカポエイラの団体が存在していると伺いました。興味をもたれた方は参加してみてもいいでしょうか。

● フットメザ ● ブラジル体験ワークショップに参加してみました！

フットメザは一見テーブルゲームのようですが、本場ブラジルではプロリーグすらある、れっきとしたスポーツです。縦約150cm、横90cmのテーブル上で選手を動かして、ボールを相手のゴールにたくさん入れたほうが勝ちとなります。卓上版サッカーゲームの、選手を一人ひとり動かせるゲームといったイメージでしょうか。



今回は日本テーブルボタンサッカー協会(フットメザジャパン)の方々、このフェスタではフットメザ式を数台設置して、そのやり方を披露してくれました。

フットメザはもともと選手に見立てた洋服のボタンやマッチ箱を使い、疑似サッカーゲームを地面に線を引いて遊んでいたのが始まりだそうです。ルールはおおまかには、フィッシャーと呼ばれる小さな板でボタンと呼ばれる選手にあたる駒をはじき、ボールをコントロールして相手のゴールに入れるものです。プレイヤーは攻撃側と守備側に分け、基本的に守備側は陣形を整えた後は待つだけで、攻撃側がどんどんゲームを進めます。これだけ聞くと簡単そうですが、これが実に難しい！相手に攻撃権が移る条件として、12タッチ以内でシュートをするというルールと並んで、毎回ボタン(選手)がボールに触れなければならないというルールがあるのですが、ボタン(選手)がボールに触れるように加減するので精一杯で、コントロールを考える余地もありませんでした。また、ゴールへのシュートは相手陣地内ならどこからでも打つことができ、うまくなるとロングシュートも入るようになるそうです。他の細かいルールは割愛しますが、筆者も少し体験しただけで非常に奥深さを感じました。

会場のお客さんものめり込むようにフットメザを楽しんでいました。ボタン(選手)も自分のオリジナルにカスタマイズできるので、色々な楽しみ方ができます。ぜひ一度お試しあれ！

(松嶋洋介)



「美味しい珈琲の入れ方」に関心を寄せる人たちでいっぱいの教室で、「上島珈琲(株)」主催のコーヒーマスターズ・フリースタイル部門優勝の伊藤佳世さんを講師に迎えて珈琲教室が開かれました。

伊藤先生のご講義で「コーヒー」の始まりはブラジルではなく、ポルトガルから苗木を贈られたのがきっかけだということが分かりました。かつて、ブラジルはポルトガル領だったことがあるため縁が深かったのでしょう。

また、豆の種類・挽き方・味・抽出方法・器具等の説明などとても有意義なお話ばかりでした。

そして、いよいよ「美味しいコーヒーのたて方」の実習になると、参加者はいきいきと体を動かし、熱心にコーヒーをたて、その味を楽しんでました。(伊東 都)

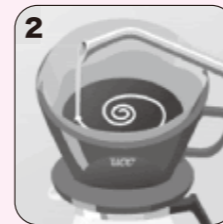


美味しいコーヒーのたて方

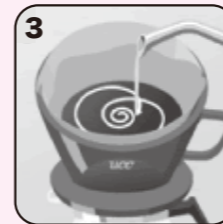


20cc(20g)20秒蒸らし

コーヒーの分量
12g(カップ1杯分)



80cc(80g)投湯



40cc(40g)投湯

20cc(20g)投湯、できあがり

★重要！お湯の注ぎ方★

粉を平らにならした面と90°の角度になるように注ぎます。お湯が曲がって注がれるとコーヒーの粉が荒れて、均一な抽出ができません。



厚い粉の層を通り、濃い抽出液が得られ、尚且つ粉自体が濾過層を形成し、浄水器のような動きをする。

【必要な器具】

- ドリッパー
- ペーパーフィルター
- サーバー・ポット

※上島珈琲(株) 提供

編集後記

ブラジル移住100周年記念として9月20日・21日に「ブラジリアン・交流フェスタ」が盛大に行われました。両日ともサンバのリズムと人々の熱気に溢れたフェスタとなりました。

また、それぞれのコーナーでは様々な角度からブラジルが紹介され、改めてブラジルの凄さを知りました。

「ブラジル」というと、私はまず「珈琲」を思い浮かべますが、フェスタで「珈琲教室」に参加された皆さんは、私と同様に目を輝かせて熱心に説明を聞いていらっしゃいました。

伊東 都

川崎市国際交流センター

〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町2番2号
TEL 044-435-7000 FAX 044-435-7010
<http://www.kian.or.jp/kic/>

